

## 学会・シンポジウム情報

### 「微小藻の世界」展 国立科学博物館

「微小藻の世界」と題した企画展が2000年12月5日（火）から2001年2月12日（月）の3ヶ月間、国立科学博物館で開催されます。主な展示内容は生育地別の「湖の藻・湿原の藻・共生の藻など」をはじめ、「マリモの生物学」、「観察コーナー」、「電顕アート」、「藻類の多様性」など多彩なコーナーが写真・映像・実物によって展開されます。また期間中下記の講演会が予定されています。

期 日：平成12年12月17日（日）

場 所：国立科学博物館 〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

講演者及び演題：井上 勲（筑波大学） キーワードは共生・藻類35億年の歩み -  
南雲 保（日本歯科大学） 小さな藻がつくるミクロのガラス細工  
渡邊 信（国立環境研究所） 小さな藻が人の生命を支えている  
若菜 勇（阿寒町教育委員会） マリモのくらし

\* 講演会への参加は事前に申込が必要です。往復ハガキに「微小藻の世界 参加希望」と記入し、住所、氏名、年齢、参加人数を記入して申し込み下さい。

問い合わせ先：国立科学博物館・展示会担当

TEL 03 - 5814 - 9855

NTT 東日本ハローダイヤル 03 - 3272 - 8600

かはくホームページ <http://www.kahaku.go.jp/>

（国立科学博物館 渡辺真之）

## 植物分類学関連学会連絡会

表記の第12回会合が2000年9月30日に静岡大学で開催された。日本藻類学会からは宮村新一代表幹事が出席した。代表が出席した他の学会は地衣類研究会、植物地理・分類学会、日本シダ学会、種生物学会、日本植物分類学会、日本蘚苔類学会、植物分類地理学会であった。（1）共同名簿発行について、前回に準じて発行することになった。2001年8月末までに会員名簿を共同名簿発行責任者に送付し、2001年11月または12月に名簿発行・送付する予定である。なお、日本藻類学会は希望者のみの参加となる。（2）日本植物学会大会の中で行っている連絡会主催シンポジウムを来年度も行うことになった。シンポジウムの責任者は植物分類地理学会、地衣類研究会である。タイトルは未定だが「海外学術調査の報告」が有力なタイトルとして挙がった。（3）今年も連絡会として科研費（企画調査）に「分類学関連学会の連携による系統学的植物・菌類相共同研究の推進」を申請することになった。研究代表者は日本シダ学会の加藤雅啓氏、地衣類研究会の原田氏が文章作成などに協力することになった。

その他、1) 日本植物分類学会と植物分類地理学会の学会合同の経過について報告があった。2) 科件費海外学術調査の別枠採択の件が話し合われた。3) 各学会に対する大学評価機構評価委員の推薦依頼の件について話し合われた。

（宮村新一）

## 自然史学会連合ニュース

平成12年10月14日(土)、国立科学博物館新宿分館において連合の総会および第6回公開シンポジウムを開催したので報告します。

### 【総会】

委任状を含め27学協会が参加。議長に日本植物学会の伊藤元己代表を選出、以下の報告、議論がありました。  
○決算、予算(単位は円)

#### 1999年度会計決算報告(1999.1.1～2000.3.31)

収入: 分担金 660,000 + 利息 621 = 小計 660,621 + 前年度繰越金 740,567 = 合計 1,401,188

支出: シンポジウム開催費 370,165 = 小計 370,165 + 次年度繰越金 1,031,023 = 合計 1,401,188

会計 田中次郎, 会計監査 伊藤元己, 原田 浩

#### 2000年度会計予算(2000.4.1～2001.3.31)

収入: 分担金 700,000 + 利息 500 = 小計 700,500 + 前年度繰越金 1,031,023 = 合計 1,731,523

支出: シンポジウム開催費 600,000 + 地域博物館アクションプラン 10,000 + 自然史研究機関立案アクションプラン 10,000 + 事務経費 50,000 = 小計 670,000 + 予備費 1,061,523 = 合計 1,731,523

#### 2001年度会計予算案(2001.4.1～2002.3.31)

収入: 分担金 700,000 + 利息 500 = 小計 700,500 + 前年度繰越金 982,267 = 合計 1,682,767

支出: シンポジウム開催費 600,000 + 地域博物館アクションプラン 120,000 + ホームページ編集維持費 40,000 + 地域教育アクションプラン 50,000 + 自然史研究機関立案アクションプラン 0 + 運営委員会事務経費 30,000 = 小計 840,000 + 予備費 842,767 = 合計 1,682,767

### 【現在の活動】

○地域博物館アクションプラン: 現在、地域博物館研究者に文部省科研費申請の道を開くべく、地域博物館の現状に関して、アンケート調査をしています。今後、申請枠を広げる上での問題点を解析し、広く報告していく予定です。また、地域博物館同士の連絡会議を設置する予定です。

○ホームページ編集委員会: 連合のホームページが稼動をはじめました。森田、遠藤、西田、篠原の運営委員を中心に、しばらく編集委員会体制を整備してまいります。ホームページへの情報をご提供下さい。

自然史学会連合ホームページ URL <http://www.soc.nacsis.ac.jp/ujsnh/>

○地域教育プラン(仮称): 自然史教育を地域を舞台に進めるべく組織づくりを開始します。まだ形はありませんが、まったく新しい連合の運動として取り組みたいと考えます。文部省・自治体などの社会教育ネットワークとの有効な連携を図ります。

○自然史研究機関立案アクションプラン: 連合が掲げた最初の段階の目標として、今後も運営委員を中心に学術会議・文部省などへ働きかけ、可能性を追求します。

○来年度のシンポジウム企画: 各学協会からの積極的な起案を募ります。また科研費公開促進費など、財源確保の意志がございましたら、事務局までご連絡ください。

### 【今後の活動案】

企業や自治体などが自然史に投資するようになってきているので、そのチャンスを連合としても積極的に活かしていくべきではないか、との意見が出されました。連合は引き続きそのような好機を積極的にとらえて、自然史の発展のために尽力します。具体的な財源獲得や運動戦略が作れる好機をとらえたら、運営委員会から学協会の皆様へご相談いたします。

### 【第6回シンポジウム】

総会の日の午後より今年のシンポジウムが日本哺乳類学会による文部省の科研費公開促進費の支援により開催されました。タイトルは「博物館とインターネット・デスクトップでナチュラルヒストリー—21世紀の自然史科学における画像データベース—」とのテーマのもとに5つの演題があり、議論が沸きあがりました。参加者は90名でした。また実際にコンピューターを会場に6台ほど設置し参加者に操作してもらう企画もあり、たいへんな意義深いシンポジウムになりました。

(田中次郎)

## 日本藻類学会公開シンポジウムのお知らせ

本誌日本藻類学会第25回大会案内にありますように、藻類学会主催の公開シンポジウムを下記のように開催いたします。会員外の方もお問い合わせの上、一人でも多くの藻類学会員のご参加をお願いいたします

日 時：2001年3月27日(火) 午後1時から5時 (一般公開、入場無料)

会 場：東京都千代田区富士見1-9-20 日本歯科大学歯学部 九段ホール

総合テーマ：生物はいかにして硬くなったか - バイオミネラリゼーション研究の最前線 -  
座 長：井上 勲 (筑波大学)

講演者及び演題：岡崎恵視 (東京学芸大学)：藻類の炭酸カルシウム形成 (石灰化)

Noel, M. H. (筑波大学)：Review on the  $\text{CaCO}_3$  in the marine nano-phytoplankton  
"coccolithophorids" and relevance to the global carbon cycle.

青葉孝昭 (日本歯科大学)：歯のエナメル質形成

長田敬五 (日本歯科大学)：珪藻類の殻形成

石灰藻の石灰化(カルシフィケーション)の仕組みと光合成との関係、藻類の細胞壁の進化と石灰化との関連、石灰化と地球温暖化との関連、珪藻類の珪酸化(シリシフィケーション)による殻形成機構のみならず、ヒトの体のなかで最も硬い組織とされる歯の表面を覆うエナメル質、炭酸含有アパタイト(リン酸カルシウム)と取り上げ、生物における結晶化の仕組みと意義についてなどバイオミネラリゼーション研究の最前線に関するシンポジウムです。

(南雲 保)

公開シンポジウム  
(一般公開、入場無料)  
主 催 日本藻類学会

- バイオミネラリゼーション研究の最前線 -

開催日：2001年3月27日(火) 午後1～5時  
場 所：日本歯科大学  
東京都千代田区富士見1-9-20

シンポジウムの内容

開 会 藻類学会会長挨拶

講演座長 井上 勲 (筑波大学教授)

1. 藻類の炭酸カルシウム形成 (石灰化)  
- その仕組み・意義・進化・地球環境 -  
岡崎恵視 (東京学芸大学教授)

2. Review on the  $\text{CaCO}_3$  in the marine nano-phytoplankton  
relevance to the global carbon cycle.  
Noel, M. H. (筑波大学)

3. 歯のエナメル質形成  
- 軟らかい組織から最も硬い組織への転換はどのようにして起こるか -  
青葉孝昭 (日本歯科大学教授)

4. 珪藻類の殻形成  
- ミクロの造形はいかに作られるか -  
長田敬五 (日本歯科大学)

5. 総合討論

お問い合わせ先  
〒102-8159 千代田区富士見1-9-20  
日本歯科大学生物学校室 TEL 03-3261-8601  
南雲 保  
本シンポジウムは平成12年度文部省科学研究補助金「研究成果公開促進費」受けました。





